

自動車図書館で本を借りる親子
名古屋市内の元柴田公園で



移動図書館は、図書館から離れた地域を回り、本を貸し出します。来館が難しい人にとってありがたい存在で、近年その役割が見直されています。移動図書館を見かけたら、立ち寄ってみませんか。新たな気付きがあるかもしれません。
(藤原啓嗣)

くらしの中から考える

移動図書館

拡声器から流れるどこか懐かしい曲。名古屋市の「自動車図書館」が9月上旬の午前、同市南区の元柴田公園に到着した。「図書館に行こう」と声が上がリ、子どもたちが集まる。車体の側面にある扉を開けると棚には本がずらり。小説や絵本、漫画、料理本など計3千冊、CDや紙芝居もある。職員が日よけのひさしを広げ、受付用の机を並べると、親子づれや高齢者が列を作った。

10年前から両親と通う名古屋1年の浜田柚希さん(12)は「いろいろな本がそろっているのを見て、興味を持った。前は絵本、今は小説を借りている」と声を弾ませた。

自治体により呼び方はさまざま。自動車図書館のほか、自動車文庫やブック・モビルも使われる。拡声器から聞こえた曲は日本図書館協会(東京)が制作し、その歌詞では「ブック・モビル」となっている。

◆ コロナ禍でも人気

減少から回復傾向 ◆

見直される役割

図書館法で、公立図書館が実施に努めるよう定められ、各地の自治体が運営する。国内では第2次世界大戦後に開始。千葉県が1949年に始めた方法がモデルとなり、70、80年代に広まった。ピークの97年には697台に上った。

その後、分館の充実や経費の削減、自動車の排ガス規制などで減少したが、近年は回復傾向に。東日本大震災の被災地では、避難所や仮設住宅を巡った移動図書館が被災者の心を寄せる場となった。病院や少年院を回ることもあり、さまざまな立場の人に本を届ける役割が見直されている。

名古屋は、2010年に廃止の考えを公表したが、市議会の意向も踏まえ方針を転換。現在は2台で計118カ所を回る。世の中が新型コロナウイルスの影響を受けた21年度には、利用者数はコロナ前を超えた。屋外の開放感も手伝わたとみられ、担当する同市鶴舞中央図書館の大井亜紀さん(49)は「スタッフをねぎらう常連の人も多く、場一体感がある」とその魅力を語る。

1カ月半に1度程度の巡回頻度を高めようと、市は来年度、今より小型の車両4台を導入。今月29日には、その意義を多くの人に考えてもらうと、滋賀県近江八幡市や、鹿児島県指宿市などで移動図書館として使われている車6台が鶴舞公園(名古屋市中昭和区)に集まる催しを開く。

移動図書館に詳しい十文字学園女子大(埼玉県新座市)の石川敬史准教授(46)は「図

開放感プラスに

移動図書館を使ったことはありますか？ また利用したいと思いませんか？ 思い出やその理由を教えてください。締め切りは19日です。紙面で紹介したお子さんの中から抽選で図書カードをプレゼントします。応募は☎460 8511

皆さんの意見を
送ってください

中日新聞(東京新聞)生活部「学ぶ」係＝ファクス052(222)5284、メールseikatu@chunichi.co.jp＝へ。QRコードからワークシート兼応募用紙もダウンロードできます。



図書館が移動することで住民を引き寄せ、交流の場ができていることに多くの人が気付き始めている」と、再評価の流れを歓迎している。